

## 普通科目（ 生物Ⅰ ）の学習指導案 17No14

## 生物Ⅱでも実施可

## 1. 指導目標

- (1) 植物の成長の調整，花芽形成と発芽の調節の方法を理解させる。  
 ※組織培養，細胞融合の方法を理解させる（生物Ⅱの場合）
- (2) 植物の新品種が、特許権のような知的財産権で保護されていることを理解させる。
- (3) 植物の新品種は、出願し、審査を受け、品種登録されると、「育成者権」が付与される。それを定めているのが「種苗法」であることを説明する。

## 2. 指導項目・内容

	指導項目・内容	時間(分)	指導上の留意点
導入	・植物の成長の調整，花芽形成と発芽の調節が必要な理由を問う。	10	
展開	・植物の成長の調整，花芽形成と発芽の調節の方法を説明する。 ① ダーウィンの実験 ② ボイセン・インセンの実験等 ③ 光周性 ④ 花成ホルモン等 ・組織培養，細胞融合について簡単に説明し、新品種の開発状況を述べる。 ・植物の新品種が、特許権のような知的財産権で保護されていることを理解させる。 ・植物の新品種は、出願し、審査を受け、品種登録されると、「育成者権」が付与される。それを定めているのが「種苗法」であることを説明する。	40	・植物の成長や花芽形成・発芽の調整から、バイオテクノロジーへと発展していった経緯を認識させる。 ・新品種の開発状況を調べておく。 ・登録書類をもとに説明しても良い。
整理	・本時をまとめ、次時の予告をする。	10	
備考	教科書「生物Ⅰ」（数研出版）P210「第1節刺激と植物の反応 Cその他の成長の調節」 教科書「生物Ⅱ」（数研出版）P86「第2章遺伝情報とその発見 5バイオテクノロジー」		